

パワエレとパワー半導体 事業を核にして、SDGs 達成、脱炭素社会の実現 に貢献



はじめに、2020年度は新型コロナウイルス感染症が世界に拡大し、社会、経済活動も大きな影響を受けた1年になりました。感染対策に尽力されている全ての皆様に心より感謝を申し上げます。

富士電機は、1923年の創業以来、エネルギー・環境技術を革新し、産業・社会インフラの分野で広く世の中に貢献してまいりました。

今、世界は大きな転換点を迎え、SDGsや気候変動対応は、グローバルでの共通課題となってきました。当社は、経営理念に“豊かさへの貢献”“創造への挑戦”“自然との調和”を掲げており、この世界の潮流は、まさに当社の経営理念そのものであり、企業活動を通じて、SDGs達成への貢献、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。当社は、創立100周年を迎える2023年度を最終年度とする5か年中期経営計画“令和.Pro Prosperity2023”において、“売上高1兆円、営業利益率8%以上”の目標達成を目指しています。ここには、エネルギー・環境事業を通じて、持続可能な社会の実現への貢献、社会と共に繁栄(Prosperity)していく、という思いを込めております。

成長分野と位置付けるパワエレ事業、パワー半導体事業は、再生可能エネルギーの安定供給や、工場・施設における省エネルギー、さらに自動車の電動化には欠かせない事業です。グリーン化、デジタル化が急進展する中、この両事業にリソースを

一層傾注し、中長期視点に立った研究開発を加速させています。世界トップクラスのパワー半導体とパワーエレクトロニクス技術のシナジーを徹底追求し、キーデバイスを活用した高効率機器に、これまで培ってきたエンジニアリングサービス、最適制御技術、IoTを組み合わせ、トータルシステムでお客さまや社会の課題解決・環境課題解決に貢献してまいります。

私がモットーとする経営は、従業員ファーストです。富士電機の経営理念のスローガンに掲げる、“熱く、高く、そして優しく”を社員と共に胸に刻み、社員とその家族の健康と安全を第一に、経営に当たってまいります。新しい技術や製品を生み出すことにより社会に貢献するという“熱い気持ち”、“高い目標”を掲げてどんな困難にも立ち向かっていく気概は、今日の環境下では一層重要になっています。ただ、“熱い”“高い”では事は成就せず、それ以上にお客さまや仲間、支えてくれている家族に感謝し、大切に思う“優しさ”が不可欠と考えています。私は、この優しさは当社のDNAであると考えており、この優しさにより、コミュニケーション力や多様な人財によるチーム力を一層高め、安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献していく所存です。

皆様のご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

北澤通宏



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。